

君の左手の薬指が僕の居場所

Evangelion fan book
Tetsu-Sabi 2014
KaworuxShinji



君の左手の薬指が僕の居場所

EvangeliOn fanbook
Tetsu-Sabi 2010
Kaworu-Shinj



僕はかつて一人の
恋をした...



これは...
どういうこと?



シンジ君…



君と僕のこととは

きっと誰も祝福
してくれない…

この指輪は
君にしてほしくて
あげたものじゃないか…

なぜ…？



ごめんなさい…

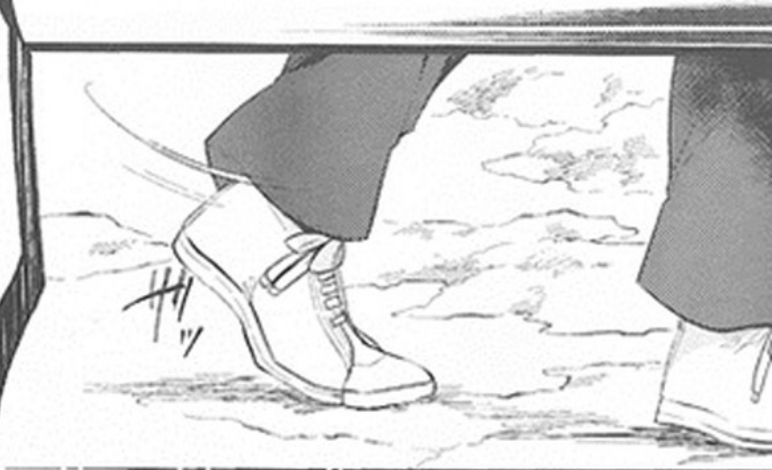


わからないよ！

ずっと一緒に
居てくれるって

約束したじゃないか

カラル君…





今でも覚えてる…

きっと

君を幸せにして
くれる人が見つかるよ



さよなら…

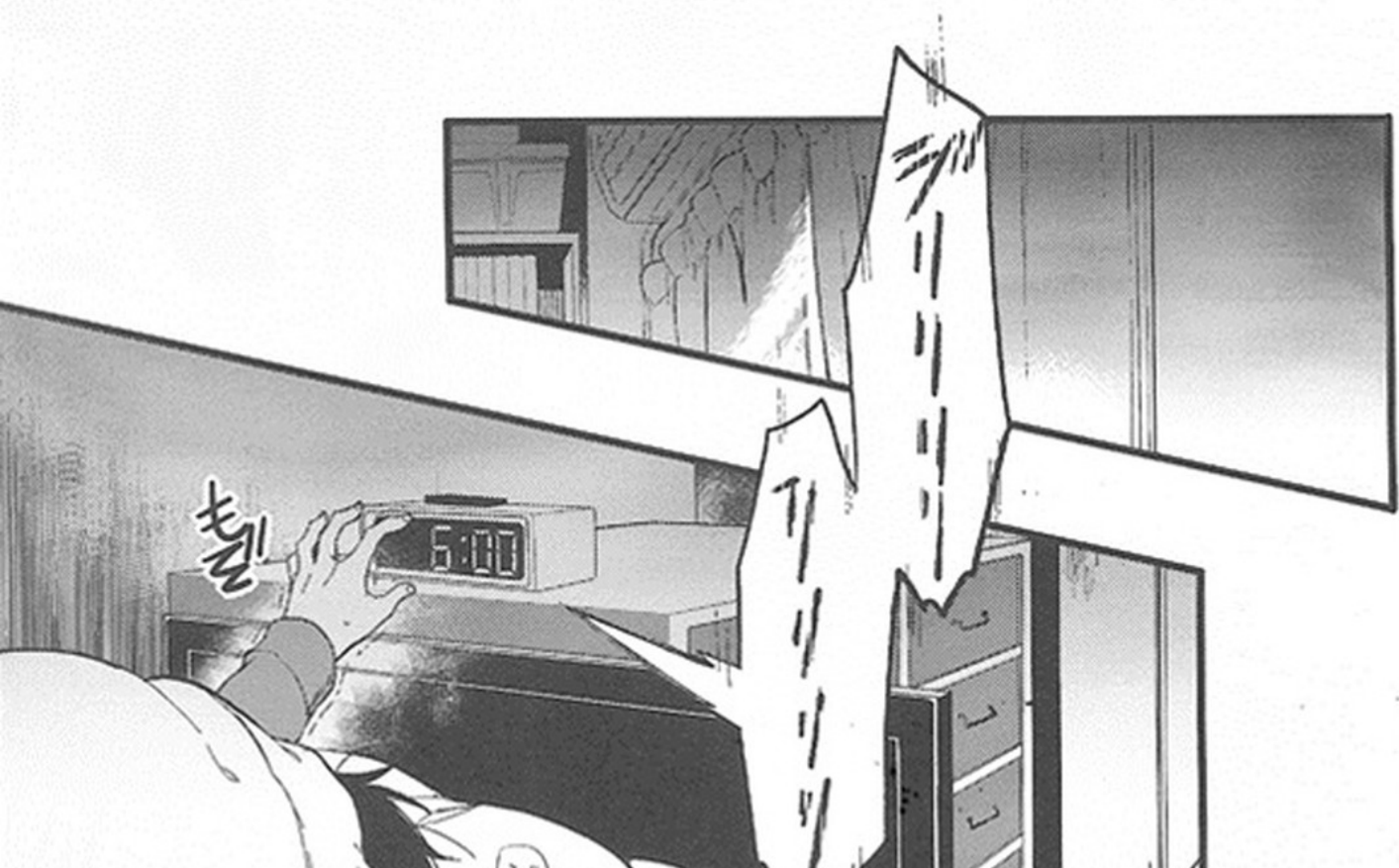
渚君…

その言葉を口にしたとき
すうっと冷えていく
手の温度と



彼の凍てついた

氷のような瞳を……







彼は僕に優しくかった

誰よりも
優しくて

僕だけを
愛してくれた...

けど
シンちゃんも
素敵な女の人と
出会って
恋をして

子供が出来たとき
この気持ち
わかるかも
しれないわ...

私はその
瞬間が
楽しみ

うん...

そうかもね...

不思議だね
人から人が
産まれるのって

触ってみる？

すごい...
ちっちゃくて
可愛いね

うん

レイ...

あなたの
お兄さんよ

あうう

世間体を
気にした

周りの目が
怖くなって…

これからの二人のことが
わからなくなった

彼の気持ちだけを
信じて…

生きられなかった

ストン

そうよね
仲良かったし！

碓君は清君が
どこに転校したか
知ってるでしょ？



ごめんね...

それでも

僕や彼のためにも

あの別れは
正解だったって...

いまでも
そう思ってる



この左手の薬指に彼はもういない...





もしもし

司書のお仕事
お疲れ様うつ

もう家には
着いたかしら？
お見合いの写真
送ったんだけど
見た？

会って
みるだけでも…
ね！

シンジだけど

まだ帰宅中！
つていうか
またお見合い？

勘弁してよ
僕はまだ結婚とか
考えてないから

だってシンちゃん
浮いた話の1つも
ないんですもの！

アナタからも何か
言ってあげて
くださいな

僕は絶対
会わないから…！

うそ…

なんで…



渚君…



シンジ君

う……うん

久しぶりだね

君も
仕事帰りかい？

うん、
すぐその図書館で
司書のお仕事
君は？

僕はしがない
サラリーマンさ
ドイツの本社勤めから
日本の支社に配属
されてね

すごいね！
僕 外国語とか
全然だもの

はははは

は……

あ……
ごめん

いいよ

君からどう

あー！

シンジ君は



左手の薬指



新しい彼女
できたの？



否定しないんだ…

よかった

そっか



もしかして…

僕の顔
不自然じゃないかな

ちゃんと
笑えてるかな...

君に大切な人が
できて...

シンジ君は...

そういう人
できたのかい？

僕はまだ...
浮いた話も無いから
母さんにお見合い
勧められちゃうくらい

そう...

だけど
なかなか気持ち
乗らなくて
一回もお見合いした
こと
無いんだ

そう...

.....

えっと
注文しよう！

僕まだ夕飯
食べてないから
おなかすいちゃって

「もうも
おしんべい」

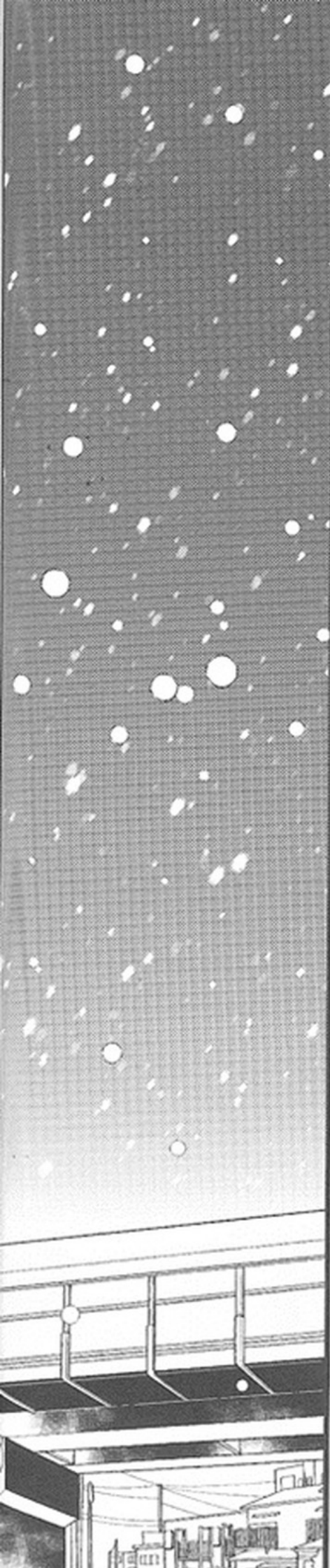
今日は
ありがとう

君と久々に
話せてよかった

うん…
僕も
楽しかった

君と
あの頃みたいに
話せて…

また
友達みたい





雪寒いね

うん…

どうぞ



だったら

わたし

わたし

いいよ！
我慢できるもん



僕の手なら

構わないだろう？



渚君の手…

あったかい…



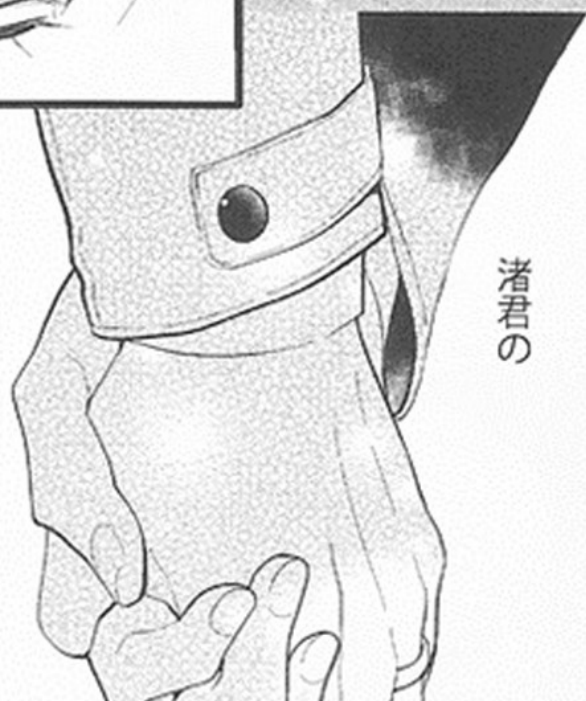
冷たかったつけ



あの時はもっと…



だけど
今は…



渚君の

指輪が冷た



うちに
寄ってかない？

う



ちょうど
作りおきのスープが
あるから…

ああ…

なんで
引き留めちゃったの…

送ってくれた
お礼もしたいし…

迷惑じゃなければ…



うれしいな…
お言葉に甘えさせて
いただくよ



どうしちゃったの？

偶然だと
思った？

この日の君との
出会いが…

ただの
偶然だと…？

どういふ

僕は初めから
知ってたよ

君が
どこで働いて
どこに
住んでいるのか

時が
来たんだよ
シンジ君

え…

僕は

君を迎えに来た…

この指輪はね
他の誰でもない…

君と僕の指輪

ずっと
思ってた
君の事を...

君と別れたときの
あのときの悲しみを

ずっと...

渚く...!

恋人を名字で
呼ぶなんて
味気ないじゃないか

シンジ君...

うわあッ
レミッ



僕達は

友達でしょ？

違うよ



違わないよ

あの頃僕達は
子供だった

好きあっていたら
何も怖くないって

でもそれだけじゃ
ダメだって…

思ったから…

きっと
後悔する



僕は
後悔してないよ

君と一緒に
なりたくて
僕は大人になったよ
もう無力な子供じゃない

君が望むなら
なんだって
してあげる…

でもたとえ
君が
望まなくても

僕は君を
手に入れる…

あ

それは…

君の指輪

これの居場所
はただ一つ

君の左手の薬指

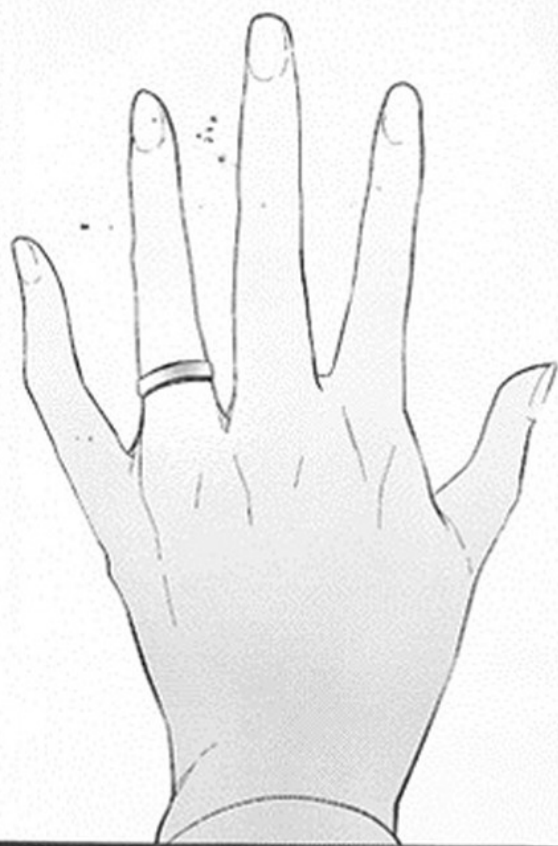
ここは一生
僕だけの居場所

あ…

だめ…っ







また僕のところに
帰って
きちゃったね…

シンジ君

キィ…

…



うん…
うん…



のど渴いてないかい？
お水買ってきたよ



カ
カヲル君



ふう



よ…



よかったあ



あの
ありがとう…

また…指輪
はめてくれて

ほんととは君に
嫌われるん
じゃないかって

すごく
不安だったんだ…

無理矢理
こんなことをして…

でも
君の事を
諦めきれなくて…

僕は君と
僕の未来を
思って
君を手放したんだ

好きってだけじゃ
不安だったから

僕の身勝手なエゴで
君を傷つけて…

ごめんなさい…

構わな



これからずっと
傍に居てくれるならね

そう…
僕はずっと君を
見ていた…

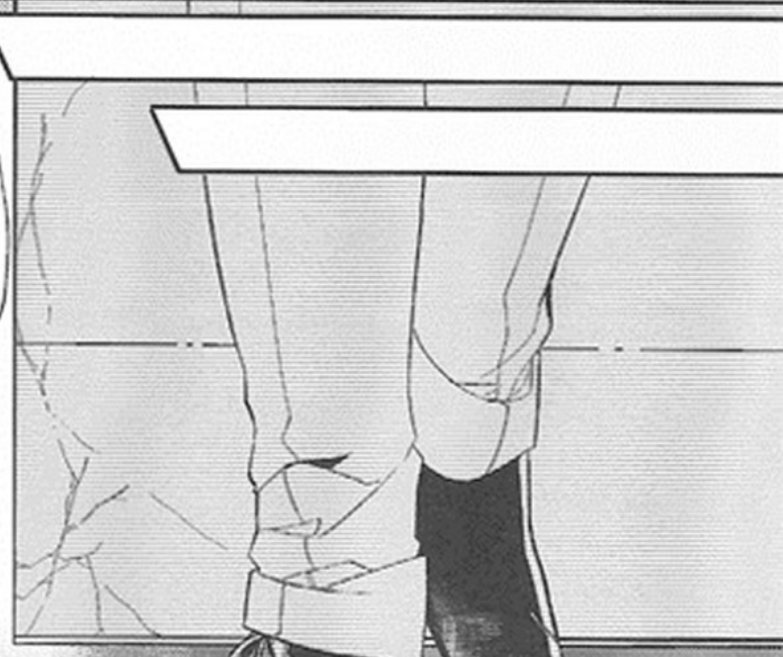
君を守るため
君を思い続けるため

そして…
いつか時がきて

迎えに行くために



一箱食べて
くれないかしら？
あとで玄關
おいとくから





今日は雪が降るよ



シンジ君





君の左手の薬指が僕の居場所

Evangelion fan book
Tetsu-Sabi 2014
KaworuxShinji